

精度、再現性ともに良好であり、他の RIA kit と比べると、LH は $n=90, r=0.951, y=1.13x-0.508$, また FSH は $n=79, r=0.972, y=0.750x+0.872$ と良好な相関関係が得られた。回収率については、LH が平均 109%, FSH で 113% となったが、LH, FSH とも、添加量の 100 mIU/ml 以上の場合、30~40% 高い回収率となった。

座長のまとめ (1~5)

吉井 弘文

演題 1: 産業医科大学開設以来の RI 検査件数について報告されたが、まだ日が浅いためか、assay 種類、件数も少なく、今後増加した場合にどう対応するか、問題を残すようであった。

演題 2: RI 検査室の汚染問題は、各大学とも大きな問題であると思われるが、放射線科医が取扱う場合と、他科が取扱う場合では、汚染度が相当異なるように思われ、RI 取扱いについて周知させることが困難であることを示唆するものであった。

演題 3: シリンジ・シールドにより、手指の被曝は、ほとんど 100% 減少するとの研究であった。実際には、使用しない場合もあるようであるが、RI 取扱者への警告とうけとめたい。

演題 4: 指向性をもったコリメータを作り、断層撮像する新しい研究である。今後の臨床的応用をまちたい。

6. 肺シンチグラムにおける片肺血流欠損例の検討

福田 俊夫 前田 徹 門前 芳夫
林 邦昭 (長崎大・放)
中島 彰久 (同・放部)

今回、われわれは、長崎大学附属病院において昭和46年より54年の9年間に行なわれた肺血流シンチにて、1969例中38例に、一側肺が完全に欠損した症例を認めた。

内訳は、原発性肺癌19例、転移性肺癌4例、良性気管支腫瘍1例、食道癌2例、胸水4例、大動脈炎症候群2例、肺結核、肺膿瘍、肺硬塞、ファロー四徴症、食道肺それぞれ1例の計38例である。

原発性肺癌が全体の約半数を占めるが、炎症等の良性疾患でも片肺血流欠損は起こりうる。また、原発性肺癌例で肺動脈造影を行なった8例では、主肺動脈に圧排、狭窄などの異常所見が全例認められるものの、完全閉塞をきたしたものは全体の約25%に過ぎなかった。

7. 原発性肺癌における²⁰¹Tl-chloride 腫瘍スキャンと気管支動脈造影の比較検討

坂田 博道 城野 和雄 小山 隆夫
園田 俊秀 伊東 隆碩 中條 政敬
田之畑修朔 篠原 慎治 (鹿大・放)

²⁰¹Tl-chloride 腫瘍スキャンと気管支動脈造影 (BAG) を同時に実施し得た原発性肺癌36例について、²⁰¹Tlの集積の程度とBAGにおけるvascularityの程度および²⁰¹Tlの集積の程度と気管支動脈内MMC one shot動注による腫瘍縮小効果に関する検討を行なった。²⁰¹Tlの集積の程度およびvascularityの程度は、それぞれ(++)、(+), (-)の3段階に分類した。

²⁰¹Tlの集積の程度と、BAGのvascularityの程度については、²⁰¹Tl(++)9例ではvascular(++)8例、(+)1例で、(-)例はみられず、²⁰¹Tl(-)11例ではvascularity(++)はなく、(+)7例、(-)4例で、²⁰¹Tlの集積の強いものほど、vascularityも強い傾向がみられた。

²⁰¹Tlの集積の程度とMMC one shot動注の効果については、²⁰¹Tl(++)8例中6例に効果がみられ、²⁰¹Tl(-)11例中10例が無効であった。したがって、²⁰¹Tlシンチは、気管支動脈内MMC one shot動注の適応を決める上でも有用であると考えられた。

8. 骨シンチグラフィにて検出した腎内瘻の1例

塩崎 宏 鴛海 良彦 西谷 弘
鬼塚 英雄 鴨井 逸馬 一矢 有一
井本 武 松浦 啓一 (九大・放)

骨シンチグラフィにてPerirenal urinary extravasationを検出し得たMalignant lymphomaの症例を経験した。骨シンチグラフィの副所見として腎を含む尿路系の異常を検出することが従来より言われているが、腎内瘻の検出はきわめて少ない。本症例を報告するとともに文献上の考察を行なった。悪性腫瘍症例の骨転移巣の検索時、従来より報告されている尿路系の異常に注目することに加うるに、腎内瘻の存在の有無にも注意を払うことが必要である。

座長のまとめ (6~8)

中條 政敬

本セッションは、肺血流スキャンに関する演題と、原発性肺癌における²⁰¹Tl-chlorideに関する演題および骨シンチ時の副所見に関する演題が発表された。